

- 薬の現状把握と投与法の検討. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17,
- 40) 千田一嘉、大菅陽子、佐竹昭介、中島一光、岡村菊夫、遠藤英俊、鳥羽研二 : UCL A とわが国の老年医学指導者養成研修の比較. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 41) 佐竹昭介、千田一嘉、洪英在、三浦久幸、遠藤英俊、近藤和泉 : 虚弱症候群を有する高齢者の特徴. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 42) 佐竹昭介、野竹恵美子、後藤友美、洪英在、三浦久幸、遠藤英俊、小出由美子、細井孝之 : 高齢者総合診療科病棟における短期間合同カンファレンスの試み. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 43) 三浦久幸、大島浩子、中村孔美、洪英在、遠藤英俊 : 「在宅医療支援病棟」入院患者の予後調査. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 44) 櫻井孝、服部英幸、鷺見幸彦、遠藤英俊、伊藤健吾、武田章敬、文堂昌彦、加知輝彦、鳥羽研二 : 認知症の予防から終末期までをケアする「もの忘れセンター」の設立. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 45) 高田健人、田中和美、大矢未帆子、杉山みち子、遠藤英俊 : 認知症高齢者における「食事中の B P S D アセスメント票」の信頼性・妥当性の評価. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 46) 牧迫飛雄馬、島田裕之、土井剛彦、吉田大輔、伊藤健吾、下方浩史、鷺見幸彦、遠藤英俊、鈴木隆雄 : 軽度認知障害を有する高齢者の Q O L と関連する要因. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 47) 吉田大輔、島田裕之、牧迫飛雄馬、土井剛彦、伊藤健吾、下方浩史、鷺見幸彦、遠藤英俊、鈴木隆雄 : 認知障害と関連する日常生活活動の検討. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 48) 洪英在、岡村菊夫、高橋龍太郎、児玉寛子、遠藤英俊、井藤英喜 : 高齢者医療における優先度調査—外来通院高齢者が優先する医療サービス. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 49) 洪英在、岡村菊夫、高橋龍太郎、下方浩史、児玉寛子、遠藤英俊、井藤英喜 : 高齢者医療における優先度調査—Web 調査における一般、医師、看護師の相違. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 50) 遠藤英俊 : 新しい認知症治療を考える. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 51) 遠藤英俊 : 高齢者の在宅医療. 高齢者医療研修会, 東京, 2011.6.17.
 - 52) 遠藤英俊 : 高齢者総合機能評価と診療計画の作成. 高齢者医療研修会, 東京, 2011.6.18.
 - 53) 遠藤英俊 : 今更人には聞けない認知症. 第 26 回日本老年精神医学会, 東京, 2011.6.17.
 - 54) Nishikawa M, Nakashima K, Miura H, Endo H, Toba K : Advance Care Planning in Japanese nursing homes. International Society of Advance Care Planning and End of Life Care Conference 2011, London UNITED KINGDOM, 2011.6.22-24.
 - 55) 遠藤英俊 : 高齢者虐待防止の調査研究. 第 8 回日本高齢者虐待防止学会, 茨城, 2011.7.30.
 - 56) 遠藤英俊、田代真耶子、三浦久幸、佐竹昭介、山本さやこ、丸地紘野、大橋篤志、永田久美子 : 日本における認知症のスピリチュアル回想法の有用性に関する研究 —認知症スピリチュアルケアの実践—. 第 12 回日本認知症ケア学会大会, 横浜, 2011.9.25.
 - 57) Toba K, Endo H : Geriatric Medical Service related to Japanese long-term care insurance. 9th Asia Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatric, Melbourne AUSTRALIA, 2011.10.24.
 - 58) 梅垣宏行、鈴木裕介、遠藤英俊 : 特定高齢者の認知機能低下に関連する因子の検討. 第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.11.
 - 59) 加藤昇平、遠藤英俊、鈴木祐太 : 認知機能障害の早期スクリーニングをめざして ; 課題実行時 f NIRS データのベイジアンマイニングに基づく NL/MCI/AD の 3 群判別. 第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.12.

- 60) 遠藤英俊：認知症疾患治療ガイドラインに基づく新しい薬物療法．第30回日本認知症学会，東京，2011.11.13.
- 61) 遠藤英俊：認知症患者の治療・介護について地域との関わり．第29回日本神経治療学会総会，福井，2011.11.17.
- 62) 遠藤英俊：未病の概念に基づく認知症の新しい診断基準と薬物療法．第18回日本未病システム学会，名古屋，2011.11.19.
- 63) 遠藤英俊：未病とこれからの医療政策．第18回日本未病システム学会，名古屋，2011.11.19.
- 64) Arai H, Kokubo Y, Sawamura T, Okamura T : Impact of small dense low-density lipoproteins cholesterol on cardiovascular disease in an urban Japanese cohort: The Suita study. American Heart Association 2011, Orlando U.S.A. 2011.11.12-16.
- 65) Arai H, Kokubo Y, Watanabe M, Miyamoto Y, Sawamura T, Okamura T : Small dense low-density lipoprotein is a risk for coronary artery disease in an urban Japanese cohort: the Suita study. ESC(European Society of Cardiology) Congress 2011, Paris FRANCE, 2011.8.27-31.
- 66) Arai H, Yokode M : (Symposium 3: The Role of Abdominal Organs in Atherogenesis) Inflammation and MCP-1-mediated macrophage recruitment in adipose tissue and the liver. 第43回日本動脈硬化学会総会・学術集会，札幌，2011.7.15-16.
- 67) Arai H, Kobubo Y, Watanabe M, Miyamoto Y, Sawamura T, Okamura T : Implication of small dense LDL as a risk for coronary artery disease in an urban Japanese cohort: The Suita study. 第43回日本動脈硬化学会総会・学術集会，札幌，2011.7.15-16.
- 68) Arai H, Kita T : Metabolic Syndrome in elderly -Comparison between East and West-. IAGG VII EUROPEAN INTERNATIONAL CONGRESS, Bologna ITALY, 2011.4.14-17.
- 69) 伊東美緒、児玉寛子、島田千穂、岡村菊夫、高橋龍太郎：「高齢者医療における優先度調査」結果報告その1—高齢者専門病院に勤務する看護師が優先する医療サービス．第53回日本老年医学会学術集会，東京，2011.6.15-17.
- 70) 児玉寛子、伊東美緒、島田千穂、岡村菊夫、高橋龍太郎：「高齢者医療における優先度調査」結果報告その2—患者の医療サービス優先度における関連要因の検討．第53回日本老年医学会学術集会，東京，2011.6.15-17.
- 71) 島田千穂、伊東美緒、児玉寛子、岡村菊夫、高橋龍太郎：「高齢者医療における優先度調査」結果報告その3—終末期医療について話し合いの経験に関連する要因．第53回日本老年医学会学術集会，東京，2011.6.15-17.
- 72) 高橋龍太郎：過疎地域の保健活動と高齢者医療．島嶼コミュニティ学会年会，東京，2011.6.18.
- 73) 石崎達郎、新名正弥、高橋龍太郎、杉原陽子、児玉寛子：高齢者における医療・介護サービスの利用状況．第70回日本公衆衛生学会総会，秋田，2011.10.19-21.
- 74) Takahashi R : Beyond the Disaster and Extremity ; Collaboration to Support Frail Elderly People. The Korean Geriatrics Society 48th Meeting, KOREA, 2011.11.26-27.
- 75) 伊東美緒、島田千穂、高橋龍太郎：医療・福祉関連職種の高齢者ケアに対する Professional Esteem に関する研究．第31回日本看護科学学会学術集会，高知，2011.12.2-3.
- 76) 児玉寛子、伊東美緒、島田千穂、岡村菊夫、高橋龍太郎：高齢患者が望む医療サービスに関連する要因の検討～身体的・社会的側面に着目して～．第7回東京都福祉保健医療学会，東京，2011.12.15.
- 77) 鳥羽研二：(学術講演収録 DVD) 高齢者の失いやすい生活機能、独居高齢者の特徴．第28回日本医学会総会，2011.4.
- 78) 鳥羽研二：(ランチョンセミナー) 認知症と虚弱を支えるホームヘルスケア．第53回日本老年医学会学術集会，東京，2011.6.
- 79) 鳥羽研二：6th Japan-Asean Conference on Men's Health and Aging, 鎌倉，2011.7.
- 80) 鳥羽研二：認知症について．第20回日本脳ドック学会，東京，2011.7.

- 81) 鳥羽研二：認知症と胃瘻の諸問題．第 22 回日本老年医学会東海地方会，愛知，2011.9.
- 82) 鳥羽研二：(基調講演) 認知症包括的ケア．第 3 回日本ケベック国際老年医学シンポジウム，Quebec CANADA, 2011.9.
- 83) 鳥羽研二：認知症からみた with aging の考え方．第 22 回日本老年医学会東北地方会，青森，2011.10.
- 84) 鳥羽研二：長寿化した社会からみえる運動器障害、歩行障害への対策～ロコモティブシンドロームとメタボと認知症～．第 48 回日本リハビリテーション医学会学術集会，東京，2011.11.
- 85) 鳥羽研二：認知症診療・ケア体制．第 30 回日本認知症学会学術集会，東京，2011.11.
- 86) Horie S：(The 6th JUA, UAA, EAU and AUA Joint Session) Spreading men's health. 第 99 回日本泌尿器科学会総会，名古屋，2011.4.20.
- 87) 堀江重郎：(シンポジウム 8) メンズヘルス診療への期待と課題．第 99 回日本泌尿器科学会総会，名古屋，2011.4.23.
- 88) 武久洋三：「これからの医療提供体制のあり方を考える」～急性期から在宅まで個々のニーズに応じた医療を提供し地域での生活を支える～；日本慢性期医療協会，大阪，2011.4.14
- 89) 武久洋三：慢性期医療における理念と実践．日本慢性期医療協会，東京，2011.4.17.
- 90) 武久洋三：これからの医療・介護提供体制を考える．愛知県医療法人協会，愛知，2011.5.25.
- 91) 武久洋三：慢性期医療における診療のポイント (2)．日本慢性期医療協会，東京，2011.6.11.
- 92) 武久洋三：血管内脱水に対する間歇的補液療法の効果について (間歇的補液投与療法) 一第 2 報一，第 53 回日本老年医学会学術集会，東京，2011.6.17.
- 93) 武久洋三：赤字病院を救うには．西日本若手病院経営者の会，福岡，2011.6.18.
- 94) 武久洋三：2012 年同時改定で医療・介護体制はどう変わるか．福岡県私設病院協会，福岡，2011.6.21.
- 95) 武久洋三：(シンポジウム) 医療保険、介護保険同時改定を控えて～どう対処していくか～．日本慢性期医療協会，北海道，2011.6.30.
- 96) 武久洋三：超高齢社会における中小病院の機能と役割について．日本医師会，東京，2011.7.6.
- 97) 武久洋三：(シンポジウム) 中小病院の地域連携はどうする．日本病院会，東京，2011.7.15.
- 98) 武久洋三：これからの医療体制について．東京都療養型病院研究会，東京，2011.7.23.
- 99) 武久洋三：慢性期医療と高齢者の療養環境の実際～現場よりの発信～．国際ジェロントロジーフォーラム，徳島，2011.8.11.
- 100) 武久洋三：慢性期病院の現状と認知症治療の実際．日本ケミファ，東京，2011.8.25.
- 101) 武久洋三：介護保険と自立支援について．(社) 山口県視覚障害者団体連合会，山口，2011.8.27.
- 102) 武久洋三：在宅療養支援病院制の課題と 2012 年改定の方向．株式会社コンタクス，東京，2011.9.7.
- 103) 武久洋三：血管内脱水に対する間歇的補液療法について．第 195 回日本内科学会近畿地方会例会，大阪，2011.9.10.
- 104) 武久洋三：慢性期医療の立場から改定を展望する．国際医療福祉大学・国際医療福祉総合研究所，東京，2011.9.17.
- 105) 武久洋三：2012 年診療報酬・介護報酬同時改定対策：病院経営戦略セミナー【準備・対策編】．社団法人病院管理研究協会，東京，2011.10.7.
- 106) 武久洋三：(シンポジウム) 社会保障改革と 2012 年診療・介護報酬同時改定への対応策を探る～地域包括ケア実現に向けた医療・介護施設の新たな役割と新介護保険サ

- ービス（定時巡回・複合型サービス）創設がもたらすもの～．保健・医療・福祉サービス研究会，東京，2011.10.8.
- 107) 武久洋三：(シンポジウム) **Clinical Indicator** (慢性期医療の臨床指標)．日本医療機能評価機構，東京，2011.10.15.
 - 108) 武久洋三：亜急性期・慢性期そして医療療養病床介護療養病床の行方．船井幸雄『経営道場』，東京，2011.10.16.
 - 109) 武久洋三：介護給付費分科会の議論から見えてくるもの．全国個室ユニット型施設推進協議会，東京，2011.10.20.
 - 110) 武久洋三：(シンポジウム) 医療・介護の連携と機能分担 診療報酬、介護報酬の同時改定は何を目指すべきか．公益財団法人医療科学研究所，東京，2011.10.21.
 - 111) 武久洋三：(シンポジウム) これからの医療提供体制．地域医療研究会，高知，2011.10.30.
 - 112) 武久洋三：次期改定の議論の焦点-慢性期医療を巡って．日経ヘルスケア，東京，2011.10.30.
 - 113) 武久洋三：慢性期医療のあり方・次期診療報酬改定に向けての対策．全日本病院協会岡山県支部 日本医療法人協会岡山県支部，岡山，2011.11.1.
 - 114) 武久洋三：医療から考える医療・介護の連携のあり方．医療タイムス，東京，2011.11.5.
 - 115) 武久洋三：診療報酬・介護報酬同時改定と医療と介護の連携課題．日本医療企画，福岡，2011.11.18.
 - 116) 武久洋三：日本慢性期医療協会の活動と 2012 改定の展望．国際医療福祉大学大学院，東京，2011.11.21.
 - 117) 武久洋三：慢性期医療の現状と今後～ジェネリック医薬品を扱う企業のあり方～．代々木会，東京，2011.11.24.
 - 118) 武久洋三：(シンポジウム) 地域ケア体制の確立と医療経営—診療・介護同時改定の動向を見据えて—．日本医療経営学会，東京，2011.11.26.
 - 119) 武久洋三：診療・介護同時改定を迎えて—慢性期医療の役割—．全国民主医療機関連合会，東京，2011.11.29.
 - 120) 武久洋三：慢性期病床の今後の方向性．医療経済フォーラム・ジャパン，東京，2011.11.30.
 - 121) 武久洋三：医療介護保険料同時改定にあたり我々が望むこと、そしてその実現性を占う．21世紀保健医療フォーラム，東京，2011.12.1.
 - 122) 武久洋三：日本慢性期医療協会における **Clinical Indicator** の取り組みについて．独立行政法人国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所，東京，2011.12.13.
 - 123) 武久洋三：(シンポジウム) 医療と介護の役割分担について．特定非営利活動法人高齢社会をよくする女性の会，東京，2012.1.13.
 - 124) 武久洋三：2025 年に向けたこれからの医療・介護ビジネス．徳島銀行・香川銀行，大阪，2012.1.19.
 - 125) 武久洋三：日本の慢性期医療からみた LTAC．社会医療研究所，大阪，2012.1.21.
 - 126) 武久洋三：日本の慢性期医療からみた LTAC．社会医療研究所，東京，2012.1.22.
 - 127) 武久洋三：臨床アウトカムからみる日本型医療提供体制改革の重要ポイント．地域中核病院研究会／医療経営研究センター・コンタクス，東京，2012.1.24.
 - 128) 武久洋三：これからの中小病院の戦略．東京青年医会，東京，2012.1.27.
 - 129) 武久洋三：医療と介護の連携の今後のあり方—診療報酬・介護報酬同時改定をふまえて—．社団法人全国社会保険協会連合会，東京，2012.1.27.
 - 130) 武久洋三：これからの中小民間病院の戦略．山口県慢性期医療協会，山口，2012.2.5.
 - 131) 武久洋三：これからの民間病院の戦い．大阪府私立病院協会 青年部会，大阪，2012.2.29.
 - 132) 武久洋三：(シンポジウム) これからの医療・介護．特定非営利活動法人日本介護経営学会，東京，2012.3.4.
 - 133) 武久洋三：「介護療養病床の廃止延期」の波及と医療一般病床への影響．総合ユニコム

- 株式会社『月刊シニアビジネスマーケット』, 東京, 2012.3.8.
- 134) 武久洋三: これからの慢性期医療. 日本慢性期医療協会, 大阪, 2012.3.10.
- 135) 武久洋三: (シンポジウム) キーパーソンが読み解く、改定の狙いと積み残された課題. 日経ヘルスケア, 東京, 2012.3.11.
- 136) 武久洋三: 慢性期病院の立場から医療・介護同時改定を読み解く. 新社会システム総合研究所, 東京, 2012.3.14.
- 137) 武久洋三: これからの慢性期医療. 日本慢性期医療協会, 東京, 2012.3.17.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他

研究協力者

東京大学大学院医学系研究科加齢医学	小島太郎
同上	亀山祐美
同上	山口 潔
同上	小川純人
同上	飯島勝矢
同上および日本老年医学会	大内尉義
東京大学高齢社会総合研究機構	鎌田 実
東北大学加齢医学研究所 老年医学研究分野	小坂陽一
京都大学大学院医学研究科	荻田美穂子
名古屋大学医学部附属病院 老年科	梅垣宏行
同上	長谷川潤
名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学	鈴木裕介
杏林大学医学部附属病院 もの忘れセンター	木村紗矢香
同上	山田如子
国立長寿医療研究センター	町田綾子
東京都健康長寿医療センター研究所	島田千穂
同上	児玉寛子
全国老人保健施設協会	江澤和彦
日本慢性期医療協会	池端幸彦
同上	美原 盤

厚生労働科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）

分担研究報告書

「高齢者医療の治療方針決定に影響を与える因子についての研究」

研究代表者 秋下雅弘 東京大学大学院医学系研究科加齢医学 准教授

研究要旨：高齢者の治療方針決定にあたっては様々な障壁があると考えられ、これらの問題の主因を明らかにするために高齢者診療に従事する医師に対し意識調査を行った。日本老年医学会主催の高齢者医療研修会参加医師 25 名を対象に、アンケートを行い、15 項目を提示し、各項目がどの程度治療方針決定に影響するかを 10 段階で回答してもらった。また、「高齢者の薬物療法における問題点と対策」に関するグループワーク（5 名×5 グループ）のレポート内容を分析した。その結果、治療方針決定に影響を与える上位項目は、有害事象の可能性、アドヒアランス、さらに合併疾患の存在であった。また、グループワークのレポートから、服薬アドヒアランスや家族によるサポート、薬剤の減量・減薬の必要性、などが全グループに共通した重要項目として挙げられた。以上の結果から、高齢者診療に従事する医師は、高齢患者の治療方針を決定する際、病態以外に上記に示した項目を重視していることがわかった。今後は、老年病専門医など高齢者医療の従事者に広く同様の調査を実施し、今回の結果を確認していく予定である。

分担研究者：

江頭正人・東京大学医学部附属病院 医療評価・安全・研修部 特任准教授
荒井啓行・東北大学加齢医学研究所 脳科学研究部門・加齢老年医学研究分野 教授
神崎恒一・杏林大学医学部 高齢医学 教授
遠藤英俊・国立長寿医療研究センター 内科総合診療部長
荒井秀典・京都大学大学院医学研究科 人間健康科学系専攻 教授
葛谷雅文・名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅医療学・老年科学 教授
高橋龍太郎・東京都健康長寿医療センター・東京都老人総合研究所 副所長
鳥羽研二・国立長寿医療研究センター病院 病院長
堀江重郎・帝京大学医学部・泌尿器科学 主任教授
山田和彦・全国老人保健施設協会 会長
武久洋三・日本慢性期医療協会 会長
武川正吾・東京大学大学院人文社会系研究科 社会学 教授
森田 朗・東京大学大学院法学政治学研究科 教授
三上裕司・日本医師会 常任理事

A. 研究目的

高齢者の各疾患に対する治療方針は、若中年者同様の方針に決定することが理想的と考えられるが、現実的には、複数の合併症に配慮したり、余命や機能障害、認知機能障害、さらには治療に伴う有害事象を考慮したりする必要があり、治療方針の変更を迫られることが多いと考えられる。一方では、ガイドラインによる治療では高齢者の予後がかえって悪いと示す文献も多く報告されており(Tinetti ME, et al. *N Engl J Med* 2004, Huang ES, et al. *Ann Intern Med* 2008; Greenfield S, et al. *Ann Intern Med* 2009; 他)、臨床医にはそもそも高齢者の治療方針決定にあたり、混乱や苦悩があると考えられる。

高齢者の治療方針決定の際に医師が経験する混乱や苦悩の原因として考えられる因子は多数あると考えられ、最近の研究により Fried らは、これらの問題を (1)高齢患者の治療に対する理解、(2)ガイドライン治療の有効性・有害事象、(3)治療を優先すべき疾患の選択 (4)治療方針に対する患者の期待・介入、(5)医師の決定を阻害する要因、の大きく5つに分類できるとしている (*Arch Intern Med.* 2011;171:75-80)。つまり、海外でもわが国同様に問題が起きていることが示唆される。

そこで本研究の目的は、高齢者医療の治療方針決定の際に臨床医が経験する混乱や苦悩の原因となる因子の中で、とりわけ重要と思われるものを明らかにすることである。具体的には以下の二つの研究により行うこととした。治療方針決定に影響を与える因子の解明を行うことにより、今後の高齢者ガイドラインに配慮すべき優先項目として提起することが期待される。

研究1. 配慮が必要と思われる多数の項目をアンケートに示し、それぞれの重要度の高さを臨床医に定量化して回答いただき、集計して重要性の順位づけを行った。

研究2. 「高齢者薬物療法の問題点」をテーマに少人数の臨床医によるグループワークを行い、その討論内容から問題点を抽出する **content analysis** により検討した。

B. 研究方法

研究1:

調査対象：調査対象を日本老年医学会主催の高齢者医療研修会参加医師とした。

アンケート：まず、高齢者医療に影響を与えると考えられる次ページの表1の通り、15項目をFried らの報告を参考に選択し、これをアンケートにまとめた。

回答者の属性に関しては、年齢、性別の他、医師としての経験年数や専門領域(内科、外科、精神科、その他)を記載していただいた。

(倫理面への配慮) 本調査は東京大学大学院医学系研究科の倫理委員会による承認を受けた(審査番号3611)。アンケートの説明文書内に自由意思による参加や個人情報保護に関する点、集計データを発表するなどの記載を行った。アンケート回答用紙は無記名で、アンケートの返答・回収を持って研究参加への同意とした。

表 1. 15 項目のアンケート

※患者の服薬能力・介助に関する問題	
1. 薬剤の用量・用法に対する患者の理解の程度	略:理解の程度
2. 治療に対する患者のアドヒアランス。	略:アドヒアランス
3. 歩行障害・ねたきりなど患者の ADL。	略:ADL
4. 介護サービス利用の有無・利用状況。	略:介護サービス
5. 同居家族・介護者などの介護環境。	略:介護環境
※治療方針に関する問題(リスク・ベネフィット・バランス)	
6. 高齢者用の治療ガイドライン(定められている場合)。	略:ガイドライン
7. 前期高齢者までのエビデンス(後期高齢者のエビデンスがない場合)。	略:エビデンス
8. 期待できる治療効果の大きさ。	略:治療効果の大きさ
9. 多剤を服用しているかどうか。	略:多剤服用
10. 危惧される有害事象の大きさ・頻度。	略:有害事象
11. 合併疾患の数や重症度。	略:合併疾患
※医師の決定を妨げる諸問題について	
12. 治療効果に対する患者/家族の過剰な期待。	略:過剰な期待
13. 限られた診察時間	略:診察時間
14. 他の医師の異なる治療方針	略:異なる方針
15. 高齢者における臨床検査基準値の欠如	略:基準値

研究2.

調査対象：調査対象を日本老年医学会主催の高齢者医療研修会参加医師とした。

グループワーク：参加医師を約 5 名の少人数グループに分割し、それぞれのグループにおいて「高齢者薬物療法の問題点」をテーマに K-J 法によるグループワークを行ってもらった。

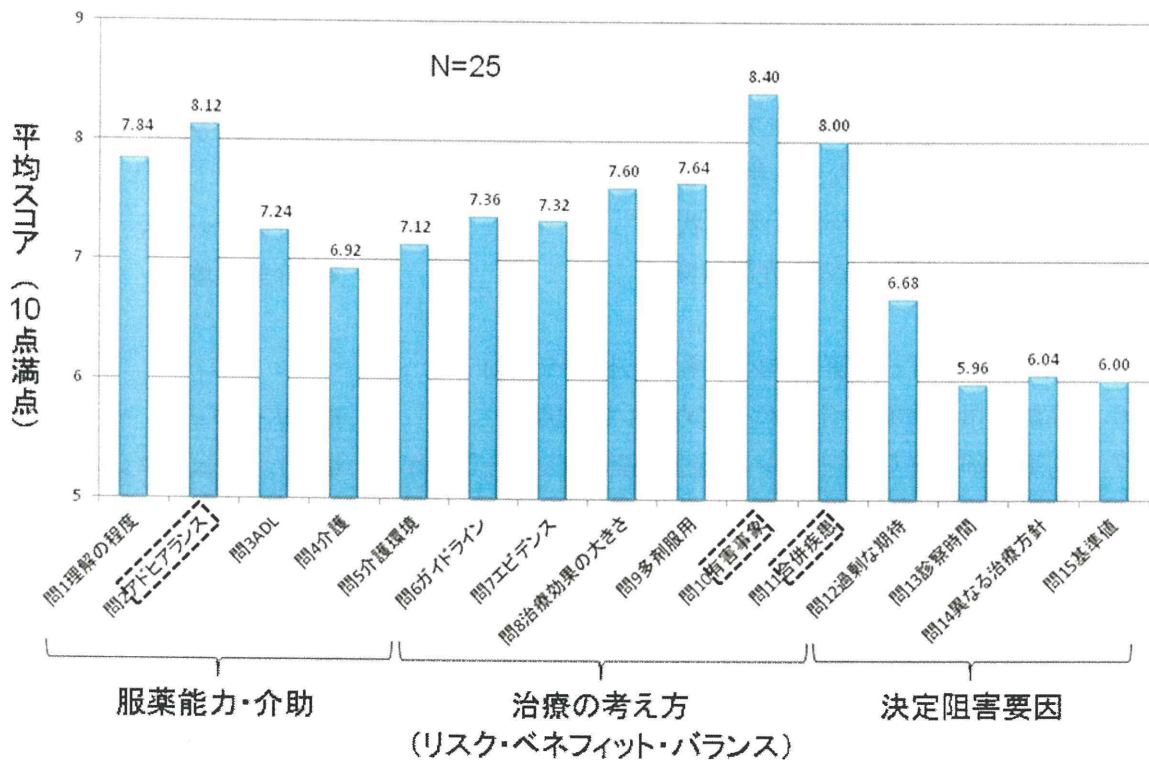
グループごとにレポートにまとめてもらい、その記載内容から高齢者の薬物療法における課題と対策を抽出する **content analysis** による検討を行った。

(倫理面への配慮) 本調査は研究1と同じくして東京大学大学院医学系研究科の倫理委員会による承認を受けた(審査番号 3611)。グループワークのレポートは無記名であり、各グループの参加者全員の同意により同意欄にチェックをしてもらい、研究参加への同意とした。

C. 結果

研究1.

図1. 高齢者医療の治療方針決定に影響する因子に関するアンケート結果



平成24年3月15日現在、高齢者医療研修会の参加者25名(男性23名、女性2名)に対して行われた。専門領域の内訳は内科系16名 外科系6名 精神科2名 救急科1名であり、40歳未満-3名、40代-9名、50代-5名、60代-7名、70歳以上-1名であった。また、老年病専門医が5名含まれていた。

各項目の重要度の平均値は図1の通りであった。医師が治療方針決定に影響が大きいものとして、上位から順に、危惧される有害事象の大きさ・頻度、合併疾患の数や重症度、患者のアドヒアランス、であった。一方で下位の項目は順に、限られた診察時間、高齢者における臨床検査基準値の欠如、他の医師との異なる治療方針であった。

研究2.

平成23年10月に開催された高齢者医療研修会の参加者25名、5名ずつの5グループの結果をまとめた。問題点として討論された結果は以下の通りであった。

1. 高齢患者のアドヒアランスの問題(全5グループ)。

各グループともこの問題を論じており、治療の継続性が薬物処方に大きな影響を与えることが示唆された。継続困難な場合の対応策として、処方薬の一包化や家族の協力、薬の減薬などが討論された。

2. 家族、介護者の介助・協力が必要(全5グループ)

全グループにおいて討論された項目で、各家庭における介助・介護の環境が服薬治療に重要

であるとの認識であった。

3. 薬剤の減量・減薬の必要性(全5グループ)。

若中年者ではあまり論じられることはないと思われるが、興味深いことに高齢者においては減量や減薬などを検討することがよいと考える医師がどのグループにおいても認められた。

4. 薬物有害事象のチェック(5グループ中4グループ)。

この中では、治療開始後に定期的な副作用のチェックや副作用の出やすい処方薬の確認の必要性などが討論された。

5. 腎機能、認知機能、うつ、あるいはADL低下など臓器・身体機能の低下の考慮(1グループ)

臓器障害や身体機能障害なども考慮した医療が必要との認識が示された。

D. 考察

わが国においてもさまざまな診療ガイドラインがあり、高齢者に対する配慮を記載したのも作成されているが、高齢者の診療をガイドライン通りの診療を行うことに対してはまだ臨床医には様々な混乱や困難があると思われる。特に医師の立場から主観的に困難と感じている点を検討することにより、高齢者に診療ガイドラインを適用するだけでは不足している点を明らかにし、さらに各医師が個々の患者に適したtailored therapyにするための対策を見出すことができると考えられる。

対象の少ない結果ながら、研究1では治療方針決定に影響を与える因子として重要性の高いものは危惧される有害事象の大きさ・頻度、治療に対する患者のアドヒアランス、さらに合併症の存在であった。近年、複数の合併疾患を有する高齢患者の治療法に関して、薬物有害事象、多剤併用、合併症や老年症候群の観点からみた治療法などはとりわけ多くの注目を浴びており、それらを反映する結果と考えられる。

一方、少数例での検討ながら医師の決定の阻害要因になりうると思われる項目については下位であった。本来高齢者の診療には合併症の病状確認など時間が必要と考えられたが、現実には時間が延長していようともそれを負担と感じないか、あるいは必要以上に時間を延長しないようにする意識を感じることができる。また、高齢者の検査結果を把握したり、複数の医師で一人の患者を個別に診察したりすることは全くまれなことではないが、検査基準値の欠落や他の医師の治療方針が自身の治療方針と異なることなども、他ほど影響力はないという結果であった。

次に高齢者に薬物療法を適用するにあたり、問題となる点について5つの少人数グループにおいて討論を実施した。アンケート調査同様、アドヒアランスが重要な点として全てのグループであげられているが、いずれのグループにおいてもアドヒアランスを向上させるための対策として家族・介護者の存在が重要との結論となり、結果的にアンケート以上に家族・介護者による影響が強調される結果となった。興味深いことにどのグループにおいても薬剤の減量・減薬が必要とされた点である。研究2は前出の研究1と同じ集団で調査されており、研究1の結果から推定すると、多剤併用により有害事象がより重篤であり頻度の高くなるこ

とや、患者のアドヒアランス低下につながりかねないこと、合併症を悪化しかねないこと、などがその理由として推測された。少数例での検討であるため今後さらに対象を大きく拡大することが必要と考えられる。

本研究では高齢患者の診療に困難があることを前提としているため、回答が誘導的である可能性が否定できない。Alter DAらの研究結果 (*Am J Med.* 2004) のように、病態によっては高齢者に若中年者のエビデンスを適用することに対する懸念に対し根拠がない、とする考え方も妥当であると思われるが、複数の慢性疾患の合併や、ときに重篤となる薬物有害事象の発生、短い平均余命などを考慮すると、あらゆる病状に対して若中年者とは異なる配慮を行うことは重要である。これらの問題点を明らかにして対策を考えるにあたっては、本研究のように影響力の大きいものを順序付けることが必要ではないかと考えられる。

本研究は平成24年度に継続して行い、対象医師を日本老年医学会認定老年病専門医にも拡大し、より多くの医師から意見を収集して高齢患者に対して影響力の大きい因子を明らかにしていく予定である。

E. 結論

高齢者診療に従事する医師は、高齢患者の治療方針を決定および薬物療法の実施に際して、病状以外の項目も重視していることが示唆された。今後さらに調査対象を拡大し、治療方針に影響を与える因子をより一層明らかにし、それらの項目を今後の高齢者ガイドラインの作成や高齢者医療の施策に際して配慮すべき項目として提起することが期待される。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Kojima T, Akishita M, Kameyama Y, Yamaguchi K, Yamamoto H, Eto M, Ouchi Y. Factors associated with prolonged hospital stay in a geriatric ward of a university hospital in Japan. *J Am Geriatr Soc.*(in press).
2. Yamada Y, Eto M, Yamamoto H, Akishita M, Ouchi Y. Gastrointestinal hemorrhage and antithrombotic drug use in geriatric patients. *Geriatr Gerontol Int.* (in press).
3. Ogita M, Utsunomiya H, Akishita M, Arai H. Indications and practice for tube feeding in Japanese geriatricians: Implications of multidisciplinary team approach. *Geriatr Gerontol Int.* 2012 Feb 20. [Epub ahead of print]
4. Akishita M, Yu J. Hormonal effects on blood vessels. *Hypertens Res.* 2012 Feb 2. [Epub ahead of print]
5. Kojima T, Akishita M, Nakamura T, Nomura K, Ogawa S, Iijima K, Eto M, Ouchi Y. Polypharmacy as a risk for fall occurrence in geriatric outpatients. *Geriatr Gerontol Int.* 2011 Dec 23. [Epub ahead of print]

6. Kojima T, Akishita M, Nakamura T, Nomura K, Ogawa S, Iijima K, Eto M, Ouchi Y. Association of polypharmacy with fall risk among geriatric outpatients. *Geriatr Gerontol Int*. 11: 438-444, 2011.
7. Akishita M, Ohike Y, Yamaguchi Y, Iijima K, Eto M, Ouchi Y. Obstructive sleep apnea exacerbates endothelial dysfunction in patients with metabolic syndrome. *J Am Geriatr Soc* 59: 1565-1566, 2011.
8. Fukai S, Akishita M, Yamada S, Ogawa S, Yamaguchi K, Kozaki K, Toba K, Ouchi Y. Plasma sex hormone levels and mortality in disabled older men and women. *Geriatr Gerontol Int*. 11: 196-203, 2011.
9. Nagai K, Kozaki K, Sonohara K, Akishita M, Toba K. Relationship between interleukin-6 and cerebral deep white matter and periventricular hyperintensity in elderly women. *Geriatr Gerontol Int*. 11: 328-332, 2011.
10. Takemura A, Iijima K, Ota H, Son BK, Ito Y, Ogawa S, Eto M, Akishita M, Ouchi Y. Sirtuin 1 retards hyperphosphatemia-induced calcification of vascular smooth muscle cells. *Arterioscler Thromb Vasc Biol*. 31: 2054-2062, 2011.
11. Yamaguchi Y, Hibi S, Ishii M, Hanaoka Y, Kage H, Yamamoto H, Yamauchi Y, Eto M, Nagase T, Ouchi Y. Pulmonary features associated with being underweight in older men. *J Am Geriatr Soc*. 59: 1558-1560, 2011.
12. 秋下雅弘. 特集 高齢者薬物療法のセーフティマネジメント；高齢者の薬物療法の基本一診かたと考えかたを知る. *月刊薬事*53: 471-475, 2011.
13. 小島太郎, 秋下雅弘. 特集・高齢者救急診療 III 高齢者に多い内因性救急；薬剤起因性疾患. *救急医学*35: 685-689, 2011.
14. 秋下雅弘. リハ医に役立つベーシック老年医学；9 高齢者の薬物代謝と薬物管理. *JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION* 20: 856-860, 2011.
15. 亀山祐美, 秋下雅弘. 高齢者と睡眠障害②；高齢者における睡眠薬のPK/PD. *薬局* 62: 73-78, 2011.
16. 秋下雅弘. 特集・私の処方箋；総論 高齢者に対する処方の留意点. *JOHNS* 27:1263-1266, 2011.
17. 秋下雅弘. III. 臨床編 薬剤誘発性認知症（状態）各論；高齢者薬物療法の留意点と薬物有害事象. *日本臨牀* 69増刊号10:149-152, 2011.
18. 秋下雅弘. 特集 これからの高齢者医療—診断・治療・予防への対応；《高齢者に対する薬物の使い方の注意点》高齢者に対する慎重投与薬. *内科* 108; 1157-1161, 2011.
19. 荒井啓行. 認知症の包括的課題 第14回認知症を語る会. *日老医誌* 49(10): 1171-1190, 2011.
20. Suzuki M, Uwano C, Ohru T, Ebihara T, Yamasaki M, Asamura T, Tomita N, Kosaka Y, Furukawa K, Arai H. Shelter acquired pneumonia after a catastrophic earthquake in Japan. *J. Am. Geriatr. Soc.* 59(10): 1968-1970, 2011.
21. Furukawa K, Arai H. Earthquake in Japan. *Lancet* 377: 1652, 2011.
22. Arai H. A comprehensive strategy for dementia from primary prevention to end-stage management. *Psychogeriatrics* 11: 131-134, 2011.
23. 神崎恒一. 第4章サルコペニアの症候別理解 第1節サルコペニアと老年症候群. *サルコペニアの基礎と臨床*. 監修 鈴木隆雄 編集 島田裕之. 東京, 真興交易(株), 116-125, 2011.
24. 神崎恒一. III臨床編 認知症の重症化に伴う医学的諸問題 各論 老年症候群と高齢者総合機能評価. *認知症学（下）日本臨牀*69 増刊号10 (1012). 東京, 日本臨牀社, 503-510, 2011.
25. 神崎恒一. 薬剤起因生歩行障害. *Geriatr. Med* 49(4): 473-476, 2011.
26. Nagai K, Kozaki K, Sonohara K, Akishita M, Toba K. Relationship between interleukin-6 and cerebral deep white matter and periventricular hyperintensity in elderly women. *Geriatr*

- Gerontol Int 11: 328-332, 2011.
27. 神崎恒一. 骨粗鬆症と高齢者の虚弱. Geriatr.Med 49(9): 971-975, 2011.
 28. 神崎恒一. CGAと包括的ケア. Aging & Health 20(3): 8-11, 2011.
 29. 神崎恒一. サルコペニアと生活機能障害. Modern Physician 31(11): 1323-1328, 2011.
 30. 長谷川浩、神崎恒一. 認知症の地域連携－三鷹市・武蔵野市認知症医療連携の現状. 内科 108(6): 1231-1234, 2011.
 31. Toba K, Nagai K, Kimura S, Yamada Y, Machida A, Iwata A, Akishita M, and Kozaki K. A new dorsiflexion measure device; A simple method to assess fall risks in the elderly. Geriatr Gerontol Int. (in press) 2012.
 32. Shimada H, Kato T, Ito K, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Suzuki T. Relationship between Atrophy of the Medial Temporal Areas and Cognitive Functions in Elderly Adults with Mild Cognitive Impairment. European Neurology 67: 168-177, 2012.
 33. Umegaki H, Suzuki Y, Yanagawa M, Nonogaki Z, Nakashima H, Endo H. Dysphagia in older adults at high risk of requiring care. GGI. (in press).
 34. Makizako H, Shimada H, Doi T, Yoshida D, Ito K, Kato T, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Suzuki T. The association between decline in physical functioning and atrophy of medial temporal areas in community-dwelling older adults, with amnesic and non-amnesic mild cognitive impairment. Arch Phys Med Rehabil. (in press) 2011.
 35. 今井幸充、長田久雄、本間昭、萱間真美、三上裕司、加藤伸司、木村隆次、石田光広、沖田裕子、遠藤英俊、池田学、半田幸子. 認知機能障害を伴う要介護高齢者の日常生活動作と行動・心理症状を測定する新評価票. 老年精神医学雑誌 22(10): 2011.10.
 36. 梅本充子、遠藤英俊、三浦久幸. 認知症高齢者における行動観察評価スケール NOSGER の検討 (第2報). 老年精神医学雑誌 22: 1283-1290, 2011.
 37. 加藤昇平、遠藤英俊、鈴木祐太. 課題実行時 f NIRS脳機能計測データのベイジアンマイニングに基づく認知機能障害の3群判別. 人工知能学会論文誌 27(2): SP-D, 2012.
 38. 遠藤英俊. アルツハイマー病 地域の取組み, 介護保険サービスの利用法. 最新医学 66(9月増刊号), 2011.
 39. 遠藤英俊、三浦久幸、佐竹昭介. 認知症の終末期のあり方. 診断と治療 3 99(3): 523-525, 2011.
 40. 遠藤英俊、三浦久幸、佐竹昭介、洪英在. 6 認知症の包括的ケア. JOURNAL OF CLINICAL REHABILITATION 20(6): 567-570, 2011.
 41. 高田健人、田中和美、大矢未帆子、杉山みち子、遠藤英俊. 認知症高齢者における「食事時のBPSDアセスメント票」の信頼性・妥当性の評価. 日本老年医学会雑誌 48: 112, 2011.
 42. 遠藤英俊、佐竹昭介、三浦久幸、小杉尚子. 5. 認知症のケアと非薬物療法の最前線. Geriatric Medicine 49(7): 795-799, 2011.
 43. 遠藤英俊、三浦久幸. 介護保険改正の焦点は. 医学のあゆみ 239(5), 2011.10.29.
 44. Yokoyama S, Yamashita S, Ishibashi S, Sone H, Oikawa S, Shirai K, Ohta T, Bujo H, Kobayashi J, Arai H, Harada-Shiba M, Eto M, Hayashi T, Gotoda T, Suzuki H, Yamada N. Background to Discuss Guidelines for Control of Plasma HDL-Cholesterol in Japan. J Atheroscler Thromb (in press).
 45. Takechi H, Sugihara Y, Kokuryu A, Nishida M, Yamada H, Arai H, Hamakawa Y. Both conventional indices of cognitive function and frailty predict levels of care required in a long-term care insurance program for memory clinic patients in Japan. Geriatr Gerontol Int (in press).
 46. Ogita M, Takechi H, Kokuryu A, Kondoh H, hamakawa Y, Arai H. Identifying cognitive dysfunction using the nurses' rapidly clinical judgment in elderly inpatients. J Clin Gerontol Geriatr (in press).

47. Tamura Y, Murayama T, Minami M, Matsubara T, Yokode M, Arai H. Ezetimibe ameliorates early diabetic nephropathy in db/db mice. *J Atheroscler Thromb* (in press).
48. Yamada M, Aoyama T, Arai H, Nagai K, Tanaka B, Uemura K, Mori S, Ichihashi N. Complex obstacle negotiation exercise can prevent falls in community-dwelling elderly Japanese aged 75 years and older. *Geriatr Gerontol Int*, (in press).
49. Yamada M, Uemura K, Mori S, Nagai K, Uehara T, Arai H, Aoyama T. Faster decline of physical performance in higher levels of baseline locomotive function. *Geriatr Gerontol Int* (in press).
50. Yamada M, Arai H, Nagai K, Tanaka B, Uehara T, Aoyama T. Development of a new index for fall risk assessment in older adults. *Int J Gerontol* (in press).
51. Arai H, Ouchi Y, Yokode M, Ito H, Uematsu H, Eto F, Oshima S, Ota K, Saito Y, Sasaki H, Tsubota K, Fukuyama H, Honda Y, Iguchi A, Toba K, Hosoi T, Kita T. Toward the realization of a better aged society: messages from gerontology and geriatrics. *Geriatr Gerontol Int* 12(1): 16-22, 2012.
52. Arai H, Ishibashi S, Bujo H, Hayashi T, Yokoyama S, Oikawa S, Kobayashi J, Shirai K, Ota T, Yamashita S, Gotoda T, Harada-Shiba M, Sone H, Eto M, Suzuki H, Yamada N. Management of type IIb dyslipidemia. *J Atheroscler Thromb* 19: 115-124, 2012.
53. Gotoda T, Shirai K, Ohta T, Kobayashi J, Yokoyama S, Oikawa S, Bujo H, Ishibashi S, Arai H, Yamashita S, Harada-Shiba M, Eto M, Hayashi T, Sone H, Suzuki H, Yamada N. Diagnosis and management of type I and type V hyperlipoproteinemia. *J Atheroscler Thromb* 19: 1-12, 2012.
54. Kanamori H, Yanagita M, Nagai K, Matsubara T, Takechi H, Fujimaki K, Hara A, Usami K, Fukatsu A, Kita T, Matsubayashi K, Arai H. Psychosocial quality of life of elderly hemodialysis patients using visual analogue scale: comparing with healthy elderly in Japan. *J Clin Gerontol Geriatr* 2: 116-120, 2011.
55. Kanamori H, Nagai K, Matsubara T, Mima A, Yanagita M, Iehara N, Takechi H, Fujimaki K, Usami K, Fukatsu A, Kita T, Matsubayashi K, Arai H. Comparison of the psychosocial quality of life in hemodialysis patients between the elderly and non-elderly using a visual analogue scale: The importance of appetite and depressive mood. *Geriatr Gerontol Int* 12(1): 65-71, 2011.
56. Tamura Y, Murayama T, Minami M, Yokode M, Arai H. Differential effect of statins on diabetic nephropathy in db/db mice. *Int J Mol Med* 28(5): 683-687, 2011.
57. Yamada M, Aoyama T, Arai H, Uemura K, Mori S, Nagai K, Tanaka B, Terasaki Y, Iguchi M. Effect of resistance training on physical performance and fear of falling in elderly with different levels of physical well-being. *Age and Ageing* 40(5): 637-641, 2011.
58. Yamada M, Arai H, Nagai K, Uemura K, Mori S, Aoyama T. Differential determinants of physical daily activities in frail and nonfrail community-dwelling older adults. *J Clin Gerontol Geriatr* 2: 42-46, 2011.
59. Mima A, Abe H, Nagai K, Arai H, Matsubara T, Araki M, Torikoshi K, Tominaga T, Iehara N, Fukatsu A, Kita T, Doi T. Activation of Src mediates PDGF-induced Smad1 phosphorylation and contributes to the progression of glomerulosclerosis in glomerulonephritis. *PLoS One* 6(3): e17929: 1-11, 2011.
60. Yamada M, Aoyama T, Arai H, Nagai K, Tanaka B, Uemura K, Mori S, Ichihashi N. Dual-task walk is a reliable predictor of falls in robust elderly adults. *J Am Geriatr Soc* 59(1): 163-164, 2011.
61. Kuzuya M, Enoki H, Hasegawa J, Izawa S, Hirakawa Y, Shimokata H, Iguchi A. Impact of caregiver burden on adverse health outcomes in community-dwelling dependent older care recipients. *Am J Geriatr Psychiatry* 19(4): 382-391, 2011.
62. Kuzuya M, Hasegawa J, Hirakawa Y, Enoki H, Izawa S, Hirose T, Iguchi A. Impact of informal care levels on discontinuation of living at home in community-dwelling dependent elderly using various community-based services. *Arch Gerontol Geriatr* 52(2): 127-132, 2011.

63. Hirano A, Suzuki Y, Kuzuya M, Onishi J, Hasegawa J, Ban N, Umegaki H. Association between the caregiver's burden and physical activity in community-dwelling caregivers of dementia patients. Arch Gerontol Geriatr. May-Jun 52(3): 295-298, 2011.
64. Aoyama M, Suzuki Y, Onishi J, Kuzuya M. Physical and functional factors in activities of daily living that predict falls in community-dwelling older women. Geriatr Gerontol Int 11(3): 348-357, 2011.
65. 大淵修一、高橋龍太郎. 高齢者と地域医療 介護予防の考え方. 内科 108(6): 1235-1239, 2011.
66. 高橋龍太郎. 地域社会と医療・福祉の今後. 病院設備 53(5): 36-39, 2011.
67. 島田千穂、高橋龍太郎. 高齢者終末期における多職種間の連携. 日本老年医学会雑誌 48(3): 221-226, 2011.
68. 鳥羽研二. ウィズ・エイジング～何歳になっても光り輝くために・・・～. グリーン・プレス: 1-247, 2011.
69. 藤谷順子、鳥羽研二 : 編著 誤嚥性肺炎 抗菌薬だけに頼らない肺炎治療. 医歯薬出版 (株) :1-213, 2011.東京
70. Toba K. Relationship between testosterone and cognitive function in elderly men with dementia, JAGS 0:1-2,2012.
71. 鳥羽研二. 認知症の周辺症状に対する抑肝散のエビデンス. 漢方医学 35(2): 118-122, 2011.
72. 鳥羽研二. アルツハイマー病における中核症状と BPSD の治療の基本. メディカルレビュー Cognition and dementia 10(1): 12-17, 2011.
73. 鳥羽研二. 高齢者医療と漢方. 診断と治療 99(5): 835-838, 2011.
74. 三浦久幸、鳥羽研二. 重症認知症疾患患者の合併症と終末期医療. 月刊 臨牀と研究 88(6): 87-89, 2011.
75. 鳥羽研二. 認知症の診断と非薬物療法について. 全国老人保健施設協会誌 老健 7: 18-25, 2011.
76. 鳥羽研二. 老年内科 標榜をめざして 老年症候群の考え方と高齢者の寝たきりの原因と対策. 日本医事新報 4552: 43-46, 2011.
77. 櫻井 孝、鳥羽研二. 特集 慢性腎臓病 (CKD) と認知症 III 認知症の予防と治療. 臨牀透析 27(8): 1041-1046, 2011.
78. 鳥羽研二、木村紗矢香、山田如子、町田綾子、神崎恒一. 手段的 ADL と基本的 ADL. 日本臨牀 69(8): 313-318;認知症学 (上) : 313-318, 2011.
79. 鳥羽研二. どんとこい！認知症 重度認知症患者デイケアの挑戦, 認知症の包括的アプローチ. どんとこい！認知症 : 135-153, 2011.
80. 鳥羽研二. 高齢者の総合的機能評価. Aging & Health 20(3): 6-7, 2011.
81. 鳥羽研二. 服薬コンプライアンスとアドヘレンス. 認知症学 (下) : 22-25, 2011.
82. 鳥羽研二 : 企画含. 老年医学・医療の最先端. 医学のあゆみ 239(5): 323, 418-424, 2011.
83. 堀江重郎. 健康長寿バイオマーカーとしてのテストステロン. medicina 48(12): 1883-1885, 2011.11.
84. 武久洋三. 慢性期病床と地域連携. 日本慢性期医療協会機関誌 JMC 76 : 7-14, 2011.8.
85. 武久洋三. 慢性期医療の臨床指標 (Clinical Indicator) の導入と活用ー慢性期医療における診療の質を測るー. 日本医療・病院管理学会誌 48(2): 23-33, 2011.
86. 武久洋三. 慢性期医療と在宅診療の新たな連携. 医学のあゆみ 239(5): 541-546, 2011.
87. 武久洋三. 《療養病床、介護施設での高齢者医療》療養病床で行う医療. 臨床雑誌内科 108(6): 1200-1205, 2011.
88. 武久洋三. 24 年度診療報酬・介護報酬同時改定への期待 協会としてどう取り組むかーそのポイント解説. 日本慢性期医療協会機関誌 JMC 78: 7-12, 2011.12.

89. 武久洋三. 2025 年に向けて良質な慢性期医療の確立をめざして 3 事業立ち上げの趣旨. 日本慢性期医療協会機関誌 JMC 79: 7-12, 2012.2.
90. 武久洋三. 血管内脱水に対する間歇的補液療法の効果: 経消化管補液の単独および併用療法について. 日老医誌 49(1): 107-113, 2012.

2. 学会発表

- 1) 秋下雅弘 (教育講演): 「健康長寿診療ハンドブック」について. 日本老年医学会四国地方会, 松山, 2012.2.18.
- 2) 秋下雅弘: 認知症と生活習慣病. 日本老年医学会四国地方会, 松山, 2012.2.18.
- 3) 秋下雅弘 (シンポジウム): ホルモンと認知症. アンドロゲンの認知機能改善作用. 日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.12.
- 4) Akishita M (Symposium): Priorities of healthcare services for the elderly in Japan. 9th Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics. Melbourne, Australia, 2011.10.26.
- 5) Akishita M (Symposium): Men's Health and Metabolism: Androgen action on vascular metabolism. 6th Japan-ASEAN Conference on Men's Health & Aging, Kamakura, Japan, 2011.7.1.
- 6) 秋下雅弘 (シンポジウム): 高齢社会/アンチエイジング 性ホルモンと抗老化. 日本医学会総会, 東京, 2011 (Web 開催).
- 7) 秋下雅弘 (シンポジウム): テストステロン医学の最前線. テストステロンと虚弱. 日本抗加齢医学会総会, 京都, 2011.5.29.
- 8) 秋下雅弘 (シンポジウム): 生活習慣病におけるアンチエイジング医療: メタボ時代に最適なアンチエイジングとは? 性ホルモンとメタボリックシンドローム. 日本抗加齢医学会総会, 京都, 2011.5.27
- 9) 秋下雅弘 (ディベートセッション): 超高齢者の血圧はどこまで下げるべきか? (厳格な降圧または緩徐な降圧) 1) 緩徐な降圧の立場から. 日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
- 10) 秋下雅弘: 高齢者の不眠治療～転倒リスクを少なくするために～. 日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
- 11) 亀山祐美, 飯島勝矢, 山口潔, 本多正幸, 小川純人, 江頭正人, 秋下雅弘, 大内尉義: 女性高齢者における遅延再生と嗅覚障害の関連. 日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.12.
- 12) 山口潔, 望月諭, 藤井広子, 山口優美, 山賀亮之助, 木棚究, 亀山祐美, 小川純人, 秋下雅弘, 大内尉義: 認知症患者の死亡原因の解析. 日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.12.
- 13) Eto M: Appropriate decision-making in geriatric medicine: balancing effectiveness and safety in antithrombotic therapy for old patients. International Association of Gerontology and Geriatrics Meeting 2011, Melbourne AUSTRALIA, 2011.10.26
- 14) 小坂陽一, 荒井啓行ら: 老年科授業アンケートの結果に見る学生の関心. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.15-17.
- 15) 小坂陽一, 荒井啓行ら: 誤嚥性肺炎発症後、経口摂取不可能となり死亡した震災関連死が疑われる 1 例. 第 22 回日本老年医学会東北地方会, 弘前, 2011.10.29.
- 16) 神崎恒一: (パネルディスカッション 介護予防: 現状・課題と新たな方向性) 虚弱の概念と転倒予防. 第 27 回日本老年学会総会, 東京, 2011.6.15.
- 17) 神崎恒一: (シンポジウム) 老年症候群と総合的機能評価. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
- 18) 秋下雅弘, 江頭正人, 荒井秀典, 神崎恒一, 葛谷雅文, 荒井啓行, 高橋龍太郎, 江澤和彦, 川合秀治, 鳥羽研二: 高齢者医療の優先順位に関する意識調査. 第 53 回日本老

- 年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
- 19) 田中政道、井上慎一郎、長谷川浩、神崎恒一：高齢者における虚弱 (frailty) の評価。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 20) Kozaki K, Koshiba H, Mochizuki S, Nagai K : Evidence of the association of arterial stiffness and inflammation with cognitive dysfunction in older adults. 第 43 回日本動脈硬化学会学術集会, 札幌, 2011.7.16.
 - 21) 神崎恒一：高齢患者における筋肉減少症 (サルコペニア) と転倒予防。転倒予防医学研究会 第 8 回研究集会, 東京, 2011.10.2.
 - 22) Kozaki K : Current Status of Medical Treatment in Long-term Care Facilities in Japan. 9th Asia/ Oceania Regional Congress of Geriatrics and Gerontology, Melbourne AUSTRALIA, 2011.10.26.
 - 23) 中居龍平、山田如子、木村紗矢香、小林義雄、長谷川浩、神崎恒一：ハンカチテスト陽性の認知症患者における機能的近赤外スペクトロスコピー (fNIRS) による脳血流分布の検討。第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.11.
 - 24) 木村紗矢香、山田如子、町田綾子、鳥羽研二、神崎恒一：もの忘れ教室の効果—周辺症状と介護負担の検討—。第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.11.
 - 25) 山田如子、木村紗矢香、小林義雄、中居龍平、鳥羽研二、神崎恒一：認知症高齢者における抑うつ因子として家族構成と介護保険サービスが及ぼす影響の検討。第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.11.
 - 26) 神崎恒一：(シンポジウム) サルコペニアの疫学・予防と対策。第 18 回日本未病システム学会学術集会, 名古屋, 2011.11.19.
 - 27) 神崎恒一：(教育講演) 高齢者の転倒リスクの評価と予防。第 55 回日本老年医学会関東甲信越地方会, 東京, 2012.3.10.
 - 28) 遠藤英俊：(ランチョンセミナー) 認知症疾患治療ガイドラインに基づく新しい薬物治療。第 31 回日本脳神経外科コンgres総会, 横浜, 2011.5.8.
 - 29) 遠藤英俊：老年症候群の早期発見・早期診断に対する高齢者総合機能評価の有用性に関する研究。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 30) 遠藤英俊：高齢者医療の生涯教育について。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 31) 遠藤英俊：ケアと介護。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 32) 遠藤英俊：地域包括ケアと在宅医療～ケアマネジメントの新たな役割～。第 10 回日本ケアマネジメント学会, 東京, 2011.6.17.
 - 33) 遠藤英俊：特定高齢者の嚥下機能低下に関連する因子の検討。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 34) 千田一嘉、西川満則、中島一光、徳田治彦、佐竹昭介、遠藤英俊：高齢持続陽圧呼吸療法 (CPAP) 患者の Vulnerable Elders Survey(VES-13)による予後予測。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 35) 遠藤英俊、洪英在、佐竹昭介、三浦久幸：老年症候群の早期発見・早期診断に対する高齢者総合機能評価の有用性に関する研究。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 36) 土井剛彦、島田裕之、牧迫飛雄馬、吉田大輔、下方浩史、伊藤健吾、鷺見幸彦、遠藤英俊、鈴木隆雄：文字流暢性課題とカテゴリー流暢性課題の課題特性。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 37) 島田裕之、伊藤健吾、牧迫飛雄馬、土井剛彦、吉田大輔、下方浩史、鷺見幸彦、遠藤英俊、鈴木隆雄：高齢者における嗅内野皮質周囲の萎縮と認知機能との関係。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 38) 溝神文博、小出由美子、小幡由紀、遠藤英俊、古田勝経：高齢者における多剤投与の現状と課題。第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 39) 小出由美子、古田勝経、溝神文博、小幡由紀、遠藤英俊：高齢者における下剤・睡眠

- 薬の現状把握と投与法の検討. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17,
- 40) 千田一嘉、大菅陽子、佐竹昭介、中島一光、岡村菊夫、遠藤英俊、鳥羽研二：UCL Aとわが国の老年医学指導者養成研修の比較. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 41) 佐竹昭介、千田一嘉、洪英在、三浦久幸、遠藤英俊、近藤和泉：虚弱症候群を有する高齢者の特徴. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 42) 佐竹昭介、野竹恵美子、後藤友美、洪英在、三浦久幸、遠藤英俊、小出由美子、細井孝之：高齢者総合診療科病棟における短期間合同カンファレンスの試み. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 43) 三浦久幸、大島浩子、中村孔美、洪英在、遠藤英俊：「在宅医療支援病棟」入院患者の予後調査. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.16.
 - 44) 櫻井孝、服部英幸、鷺見幸彦、遠藤英俊、伊藤健吾、武田章敬、文堂昌彦、加知輝彦、鳥羽研二：認知症の予防から終末期までをケアする「もの忘れセンター」の設立. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 45) 高田健人、田中和美、大矢未帆子、杉山みち子、遠藤英俊：認知症高齢者における「食事中の B P S D アセスメント票」の信頼性・妥当性の評価. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 46) 牧迫飛雄馬、島田裕之、土井剛彦、吉田大輔、伊藤健吾、下方浩史、鷺見幸彦、遠藤英俊、鈴木隆雄：軽度認知障害を有する高齢者の Q O L と関連する要因. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 47) 吉田大輔、島田裕之、牧迫飛雄馬、土井剛彦、伊藤健吾、下方浩史、鷺見幸彦、遠藤英俊、鈴木隆雄：認知障害と関連する日常生活活動の検討. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 48) 洪英在、岡村菊夫、高橋龍太郎、児玉寛子、遠藤英俊、井藤英喜：高齢者医療における優先度調査—外来通院高齢者が優先する医療サービス. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 49) 洪英在、岡村菊夫、高橋龍太郎、下方浩史、児玉寛子、遠藤英俊、井藤英喜：高齢者医療における優先度調査—Web 調査における一般、医師、看護師の相違. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 50) 遠藤英俊：新しい認知症治療を考える. 第 53 回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.17.
 - 51) 遠藤英俊：高齢者の在宅医療. 高齢者医療研修会, 東京, 2011.6.17.
 - 52) 遠藤英俊：高齢者総合機能評価と診療計画の作成. 高齢者医療研修会, 東京, 2011.6.18.
 - 53) 遠藤英俊：今更人には聞けない認知症. 第 26 回日本老年精神医学会, 東京, 2011.6.17.
 - 54) Nishikawa M, Nakashima K, Miura H, Endo H, Toba K : Advance Care Planning in Japanese nursing homes. International Society of Advance Care Planning and End of Life Care Conference 2011, London UNITED KINGDOM, 2011.6.22-24.
 - 55) 遠藤英俊：高齢者虐待防止の調査研究. 第 8 回日本高齢者虐待防止学会, 茨城, 2011.7.30.
 - 56) 遠藤英俊、田代真耶子、三浦久幸、佐竹昭介、山本さやこ、丸地紘野、大橋篤志、永田久美子：日本における認知症のスピリチュアル回想法の有用性に関する研究 —認知症スピリチュアルケアの実践—. 第 12 回日本認知症ケア学会大会, 横浜, 2011.9.25.
 - 57) Toba K, Endo H : Geriatric Medical Service related to Japanese long-term care insurance. 9th Asia Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatric, Melbourne AUSTRALIA, 2011.10.24.
 - 58) 梅垣宏行、鈴木裕介、遠藤英俊：特定高齢者の認知機能低下に関連する因子の検討. 第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.11.
 - 59) 加藤昇平、遠藤英俊、鈴木祐太：認知機能障害の早期スクリーニングをめざして；課題実行時 f NIRS データのベイジアンマイニングに基づく NL/MCI/AD の 3 群判別. 第 30 回日本認知症学会学術集会, 東京, 2011.11.12.

- 60) 遠藤英俊：認知症疾患治療ガイドラインに基づく新しい薬物療法. 第30回日本認知症学会, 東京, 2011.11.13.
- 61) 遠藤英俊：認知症患者の治療・介護について地域との関わり. 第29回日本神経治療学会総会, 福井, 2011.11.17.
- 62) 遠藤英俊：未病の概念に基づく認知症の新しい診断基準と薬物療法. 第18回日本未病システム学会, 名古屋, 2011.11.19.
- 63) 遠藤英俊：未病とこれからの医療政策. 第18回日本未病システム学会, 名古屋, 2011.11.19.
- 64) Arai H, Kokubo Y, Sawamura T, Okamura T : Impact of small dense low-density lipoproteins cholesterol on cardiovascular disease in an urban Japanese cohort: The Suita study. American Heart Association 2011, Orlando U.S.A. 2011.11.12-16.
- 65) Arai H, Kokubo Y, Watanabe M, Miyamoto Y, Sawamura T, Okamura T : Small dense low-density lipoprotein is a risk for coronary artery disease in an urban Japanese cohort: the Suita study. ESC(European Society of Cardiology) Congress 2011, Paris FRANCE, 2011.8.27-31.
- 66) Arai H, Yokode M : (Symposium 3: The Role of Abdominal Organs in Atherogenesis) Inflammation and MCP-1-mediated macrophage recruitment in adipose tissue and the liver. 第43回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 札幌, 2011.7.15-16.
- 67) Arai H, Kokubo Y, Watanabe M, Miyamoto Y, Sawamura T, Okamura T : Implication of small dense LDL as a risk for coronary artery disease in an urban Japanese cohort: The Suita study. 第43回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 札幌, 2011.7.15-16.
- 68) Arai H, Kita T : Metabolic Syndrome in elderly -Comparison between East and West-. IAGG VII EUROPEAN INTERNATIONAL CONGRESS, Bologna ITALY, 2011.4.14-17.
- 69) 伊東美緒、児玉寛子、島田千穂、岡村菊夫、高橋龍太郎：「高齢者医療における優先度調査」結果報告その1—高齢者専門病院に勤務する看護師が優先する医療サービス. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.15-17.
- 70) 児玉寛子、伊東美緒、島田千穂、岡村菊夫、高橋龍太郎：「高齢者医療における優先度調査」結果報告その2—患者の医療サービス優先度における関連要因の検討. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.15-17.
- 71) 島田千穂、伊東美緒、児玉寛子、岡村菊夫、高橋龍太郎：「高齢者医療における優先度調査」結果報告その3—終末期医療について話し合いの経験に関連する要因. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.15-17.
- 72) 高橋龍太郎：過疎地域の保健活動と高齢者医療. 島嶼コミュニティ学会年会, 東京, 2011.6.18.
- 73) 石崎達郎、新名正弥、高橋龍太郎、杉原陽子、児玉寛子：高齢者における医療・介護サービスの利用状況. 第70回日本公衆衛生学会総会, 秋田, 2011.10.19-21.
- 74) Takahashi R : Beyond the Disaster and Extremity ; Collaboration to Support Frail Elderly People. The Korean Geriatrics Society 48th Meeting, KOREA, 2011.11.26-27.
- 75) 伊東美緒、島田千穂、高橋龍太郎：医療・福祉関連職種の高齢者ケアに対する Professional Esteem に関する研究. 第31回日本看護科学学会学術集会, 高知, 2011.12.2-3.
- 76) 児玉寛子、伊東美緒、島田千穂、岡村菊夫、高橋龍太郎：高齢患者が望む医療サービスに関連する要因の検討～身体的・社会的側面に着目して～. 第7回東京都福祉保健医療学会, 東京, 2011.12.15.
- 77) 鳥羽研二：(学術講演収録 DVD) 高齢者の失いやすい生活機能、独居高齢者の特徴. 第28回日本医学会総会, 2011.4.
- 78) 鳥羽研二：(ランチョンセミナー) 認知症と虚弱を支えるホームヘルスケア. 第53回日本老年医学会学術集会, 東京, 2011.6.
- 79) 鳥羽研二：6th Japan-Asean Conference on Men's Health and Aging, 鎌倉, 2011.7.
- 80) 鳥羽研二：認知症について. 第20回日本脳ドック学会, 東京, 2011.7.

- 81) 鳥羽研二：認知症と胃瘻の諸問題。第22回日本老年医学会東海地方会，愛知，2011.9.
- 82) 鳥羽研二：(基調講演) 認知症包括的ケア。第3回日本ケベック国際老年医学シンポジウム，Quebec CANADA, 2011.9.
- 83) 鳥羽研二：認知症からみた with aging の考え方。第22回日本老年医学会東北地方会，青森，2011.10.
- 84) 鳥羽研二：長寿化した社会からみえる運動器障害、歩行障害への対策～ロコモティブシンドロームとメタボと認知症～。第48回日本リハビリテーション医学会学術集会，東京，2011.11.
- 85) 鳥羽研二：認知症診療・ケア体制。第30回日本認知症学会学術集会，東京，2011.11.
- 86) Horie S：(The 6th JUA, UAA, EAU and AUA Joint Session) Spreading men's health. 第99回日本泌尿器科学会総会，名古屋，2011.4.20.
- 87) 堀江重郎：(シンポジウム8) メンズヘルス診療への期待と課題。第99回日本泌尿器科学会総会，名古屋，2011.4.23.
- 88) 武久洋三：「これからの医療提供体制のあり方を考える」～急性期から在宅まで個々のニーズに応じた医療を提供し地域での生活を支える～；日本慢性期医療協会，大阪，2011.4.14
- 89) 武久洋三：慢性期医療における理念と実践。日本慢性期医療協会，東京，2011.4.17.
- 90) 武久洋三：これからの医療・介護提供体制を考える。愛知県医療法人協会，愛知，2011.5.25.
- 91) 武久洋三：慢性期医療における診療のポイント(2)。日本慢性期医療協会，東京，2011.6.11.
- 92) 武久洋三：血管内脱水に対する間歇的補液療法の効果について(間歇的補液投与療法)－第2報－，第53回日本老年医学会学術集会，東京，2011.6.17.
- 93) 武久洋三：赤字病院を救うには。西日本若手病院経営者の会，福岡，2011.6.18.
- 94) 武久洋三：2012年同時改定で医療・介護体制はどう変わるか。福岡県私設病院協会，福岡，2011.6.21.
- 95) 武久洋三：(シンポジウム) 医療保険、介護保険同時改定を控えて～どう対処していくか～。日本慢性期医療協会，北海道，2011.6.30.
- 96) 武久洋三：超高齢社会における中小病院の機能と役割について。日本医師会，東京，2011.7.6.
- 97) 武久洋三：(シンポジウム) 中小病院の地域連携はどうする。日本病院会，東京，2011.7.15.
- 98) 武久洋三：これからの医療体制について。東京都療養型病院研究会，東京，2011.7.23.
- 99) 武久洋三：慢性期医療と高齢者の療養環境の実際～現場よりの発信～。国際ジェロントロジーフォーラム，徳島，2011.8.11.
- 100) 武久洋三：慢性期病院の現状と認知症治療の実際。日本ケミファ，東京，2011.8.25.
- 101) 武久洋三：介護保険と自立支援について。(社)山口県視覚障害者団体連合会，山口，2011.8.27.
- 102) 武久洋三：在宅療養支援病院制の課題と2012年改定の方向。株式会社コンタクス，東京，2011.9.7.
- 103) 武久洋三：血管内脱水に対する間歇的補液療法について。第195回日本内科学会近畿地方会例会，大阪，2011.9.10.
- 104) 武久洋三：慢性期医療の立場から改定を展望する。国際医療福祉大学・国際医療福祉総合研究所，東京，2011.9.17.
- 105) 武久洋三：2012年診療報酬・介護報酬同時改定対策：病院経営戦略セミナー【準備・対策編】。社団法人病院管理研究協会，東京，2011.10.7.
- 106) 武久洋三：(シンポジウム) 社会保障改革と2012年診療・介護報酬同時改定への対応策を探る～地域包括ケア実現に向けた医療・介護施設の新たな役割と新介護保険サ